資 料

農場 HACCP 認証の歩みと現状について

宮島成郎*

公益社団法人 中央畜産会

Evolution and Present Situation of Livestock Farm
HACCP Certification in Japan

Shigeo MIYAJIMA*

Japan Livestock Industry Association

Summary

In a rise of consumers' concern over food safety, an approach to mitigating risks at every stage of food production from farm to table (food chain approach) is becoming indispensable. "Certification criteria for livestock farms which conduct hygiene management based on the hazard analysis and the critical control point (HACCP) approach" was issued in 2009 by the Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries. A project to set up Livestock Farm HACCP certification using these criteria has been underway since 2011. This project is expected to contribute to the mitigation of the risks caused by hazards on livestock farms, and consequently to the improved animal health and more efficient production on livestock farms.

1. はじめに

食品安全に対する消費者の関心の高まりの中で、生産から消費にわたる一貫した安全性の確保の取り組みが不可欠なものとなってきている。とりわけ、畜産物については加工流通段階での危害要因分析・重要管理点（HACCP）への取り組みも進んできており、その中で、その供給元となる家畜飼養段階での安全性の確保がより重要なものとなってきている。この生産農場段階での衛生管理の向上を図り病原性微生物などによる危害要因を減少させ、健康な家畜を生産するため、流通段階と同様 HACCP の考え方を取り入れるとともに継続的な改善システムを併せた取り組みが求められてきた。

このような中で、国際的な安全システムである ISO22000 に準拠した、我が国統一的な農場 HACCP 認証体制を構築推進することとなった。2009 年に国が定めた「畜産農場における飼養衛生管理向上認証基準（以下「農場 HACCP

認証基準」という。）」に基づき、2011 年から健康な家畜・安全な畜産物を生産するための衛生管理システムを構築し、運用している農場を認定する事業「農場 HACCP 認証事業」が開始された。この取り組みの進展により、わが国の畜産物の生産段階での危害の排除はもとより、衛生管理全般の改善、家畜の健康維持・飼育管理技術の見直し等を通じた生産性の向上も期待されている。

2. 農場 HACCP 取り組みの背景

わが国では畜産分野における家畜飼養衛生の強化対策の一つとして 1990 年代中頃から HACCP を取り入れた取り組みが国を中心として進められてきた（図 1）。国は、まず「HACCP を生産段階に導入するための実態調査」を 1996 年に実施し、2002 年には生産農場段階での HACCP 導入の前提ともなる「家畜の飼養段階における衛生管理ガイドライン」の作成、さらには 2003 年、口蹄疫及び BSE の発生を踏まえた、家畜伝染病予防法における基礎的な防疫体制の強化を図るための「新たな家畜飼養衛生管理基準の制定」、家畜保健衛生所による「HACCP 方式を活用した衛生管理モデル事業」の実施等を行ってきた。

このような中で、各県、団体において認証に向けた取り組みが開始され、その具体化が進められた。全国的な認証

連絡先：宮島成郎*

(公社)中央畜産会

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-16-2

Tel : 03-3206-0831 ; Fax : 03-5289-0890

E-mail: s_miyajima@jlja.jp

図 1 農場 HACCP 取り組みの歩み

図 2 農場 HACCP 認証農場及び推進農場の概念図

取組の水準の統一化や認証の信頼性の確保についての要請等背景として、既述のとおり、2009年に、国が「農場 HACCP 認証基準」(図1参照)を策定し公表した。

2011年3月、これら認証の具体的な推進を図るための調整機関としての位置づけともなる「農場 HACCP 認証協議会(会長:酒井健夫前日大総長)」が設立され、本協議会において認証機関の認定及び審査員の登録などが開始された。これまでに認証機関としては中央畜産会等2機関が認定され、わが国で初めてとなる認証業務が中央畜産会において2011年12月から開始している。

また、中央畜産会は、農場 HACCP に関心を有しながらも躊躇しがちな農場も少なくないことから、農場 HACCP 認証事業の開始に先立つ2012年2月より、この認証の前提となる農場経営者の HACCP 手法についての理解、飼養衛生管理基準の遵守、農場の現状の把握といった認証条件の基礎的な部分を満たしている農場を「農場 HACCP 推進農場」として指定する事業を認証事業に繋げられるステッ

プ事業として位置づけ開始・推進している。(図2及び表1)

3. 農場 HACCP 認証基準と取組みの特徴

(1) 農場 HACCP 認証基準について

本来 HACCP は、国際的な食品安全の手法としてすべての製造工程から食中毒などの危害要因を洗い出しそれらを効率的・効果的に排除・低減していこうとするものである。しかし HACCP はマネジメントシステムを持たないため、改善が図りにくい等の課題も指摘され、そのような中で国際化標準化機構(ISO)が、2005年にこの HACCP と継続的改善システムである ISO9001 を癒合させた ISO22000 を発行し、食品安全の国際規格として広く普及することとなったものである。農場 HACCP 認証基準(表2参照)は、この ISO22000 に準拠し策定されている。

すなわち、農場 HACCP 認証基準は、作業の工程毎に「危害の要因を分析(HA)し、その危害を防止する必須(重要)管理点(CCP)を定め管理する」HACCP 手法に、「計画(Plan)

表 1 農場 HACCP 推進農場と認証農場の資格要件等の比較

区 分	農場 HACCP 推進農場	農場 HACCP 認証農場
適合要件	<p>「畜産農場における飼養衛生管理向上の取組認証基準」のうち<u>次の要求事項</u>を満たしていること。</p> <p>①経営者の責任（意志表明・周知） ②危害要因分析の準備（現状把握） 〈フローダイアグラムの作成〉 ③一般的衛生管理水準の確保 （家畜衛生管理規範を参考）</p> <p>④関係機関等による指導・助言を受けていること。</p>	<p>「畜産農場における飼養衛生管理向上の取組認証基準」の<u>全ての要求事項</u>を満たしていること。</p> <p>①経営者の責任 ②危害要因分析の準備 〈フローダイアグラムの作成、<u>現場確認</u>〉 ③一般的衛生管理水準の確保</p> <p>④危害分析（HA） ⑤重要管理点（CCP）の設定 ⑥許容限界の設定 ⑦監視方法の設定 ⑧改善措置の設定 ⑨検証方式の設定 ⑩文書化・記録方法の設定</p>
手続き	<p>①書類審査 （要チェックリスト等の添付（注））</p>	<p>①書類審査 ②審査員による<u>実地審査</u> ③<u>認証判定委員会における審査</u></p>

（注）飼養衛生管理基準のチェックリストに基づき獣医師が確認を行う。

表 2 農場 HACCP 認証基準の概要

〈第Ⅰ部認証基準〉

家畜生産農場において、HACCP の考え方を取り入れた衛生管理の導入に必要な基礎的な要求事項を設定

第1章 範囲、引用文書、用語	用語の定義等
第2章 経営者の責任	経営者による HACCP 実施の誓約、HACCP チームの任命、内部・外部コミュニケーションの確立等
第3章 危害要因分析の準備	原材料、用途、工程一覧図（フローダイアグラム）の文書化・保持・更新等
第4章 一般衛生管理プログラムの確立と HACCP 計画の作成	危害要因分析の実施と CCP・許容限界の決定、監視方法・是正措置の確立等
第5章 教育・訓練	従事者の教育・訓練の実施等
第6章 評価、改善及び衛生管理システムの更新	内部検証の実施、消費者や出荷先からの情報収集・分析、衛生管理システムの改善等
第7章 衛生管理文書リスト及び文書、記録に関する要求事項	各要件に関する農場の衛生管理文書の作成等

〈第Ⅱ部畜種別衛生管理規範〉

各家畜（乳用牛、肉用牛、豚、採卵鶏、肉用鶏）毎に、HACCP を適用した農場の衛生管理をモデル的に整理（施設・設備の要件・衛生管理、原材料、家畜・畜産物の取り扱い、出荷畜等の運搬等）

図 3 農場 HACCP 認証基準 (PDCA サイクルでの取組み)

図 4 一般的衛生管理プログラムの確立と HACCP 計画の作成・実行

→実施 (Do) →検証 (Check) →改善・実行=措置 (Act)」、いわゆる PDCA サイクルという継続的改善 (マネジメント) システムを組み合わせることで構築したものである。(図 3 参照)

特に、家畜生産分野での衛生管理システムの構築においては、食品加工分野等とは異なり家畜と糞尿との分離が難しい等の特性を有している。したがって、このような特性を踏まえつつ HACCP 手法を活用しながら農場の衛生管理を継続的に改善させ、これによって、家畜の健康増進、生産性を向上させ、安全な畜産物の生産を実現していこうとするものである。

農場 HACCP 認証基準で最も中心となるのは HACCP であるが、一般的衛生管理プログラムの整備と全ての生産工程の把握がその前提となる。この農場 HACCP に取り組んだ多くの農場での評価の主要なものの一つがこの HACCP の準備段階での当該農場の全体的な飼養管理内容の具体的

な把握である。その上で、すべての工程ごとに物理的、化学的、生物学的な危害要因の有無を判断し、危害要因についてはその重篤性及び頻度について分析を行い、一般的衛生管理プログラムで取り組むべきものか必須管理点として取り組むべきものの判断を行うこととなる。(図 4 参照)

必須管理点とされたものについては、安全性を確保し得る許容限界の決定、その許容限界からの逸脱の有無についての監視 (モニタリング) 方法の確立、逸脱が確認された場合は是正措置の確立、検証方法の決定文書化及び記録方法の確立を内容とする HACCP 計画を作成し、農場段階での危害要因の効率的、効果的な排除低減、安全性の確保を図るものである。

(2) 農場 HACCP 認証基準取組み上の特徴

農場 HACCP 認証基準に基づく農場飼養衛生管理システムの構築に取り組むことにより農場の経営において多くの効用が期待されている。

表 3 農場 HACCP 認証農場の認証状況

(H25.7.1 現在)

	認証年月日	牛	豚	鶏	計
第 1 次認証	H24.4.27	4 (肉 2, 乳 2)	6	4 (採卵)	14
第 2 次認証	H24.7.9	—	1	—	1
第 3 次認証	H24.10.17	—	—	1 (採卵)	1
第 4 次認証	H24.11.14	—	1	1 (採卵)	2
第 5 次認証	H25.6.28	1 (—, 乳 1)	3	—	4
計	H24.4～H25.6	5 (肉 2, 乳 3)	11	6 (採卵)	22

表 4 農場 HACCP 推進農場の指定状況

(H25.7.1 現在)

	指定年月日	牛	豚	鶏	計
第 1 次指定	H23.5.26	2 (肉)	15	8 (採卵)	25
第 2 次指定	H23.11.9	1 (肉)	10	3 (採卵)	14
第 3 次指定	H24.3.29	5 (肉 4, 乳 1)	6	2 (採卵 1, ブロイラー 1)	13
第 4 次指定	H24.8.23	2 (肉)	4	3 (採卵)	9
第 5 次指定	H25.1.22	2 (肉)	2	4 (採卵)	8
第 6 次指定	H25.3.28	1 (肉)	5	4 (採卵 3, ブロイラー 1)	10
第 7 次指定	H25.6.24	1 (乳)	3	3 (採卵)	7
計	H23.5～H25.6	14 (肉 12, 乳 2)	45	27 (採卵 25, ブロイラー 2)	86

※平成 23 年指定件数 39 件

※平成 24 年指定件数 22 件

※平成 25 年指定件数 25 件

(計) 86 件

その第 1 は、安全な畜産物の提供について生産農場での責務を十分果たせることにある。飼養衛生管理等の活動内容の文書化・保存、外部コミュニケーションの徹底等により HACCP で取り組んだ安全性の確保がより充実したものとなる。仮に流通段階で注射針の混入が問題となっても当該農場の正当性の主張も可能となる。

第 2 は、生産性の向上と防疫水準の確保が期待されることにある。農場での全体的な活動管理実態の把握、見直しに基づく一般的衛生管理の徹底により廃棄・淘汰率等の改善、増体率や育成率の向上が図られることともに農場管理従事者個々の取り組み意識の明確化・共有化と自発的行動の促進により業務運営の円滑化と組織の活性化が図られることとなる。これらの結果、取り組み農場で生産性の向上も可能とするものである。また、これらの取り組みは一般衛生管理の基礎的要素としての飼養衛生管理基準の遵守を前提にするものであり家畜防疫上の危害の低減に大きく貢献するものである。

第 3 は、農場 HACCP 認証基準は、農場外からの家畜保健衛生所職員や担当獣医師、関係団体・企業担当者等の HACCP 指導関係者の参画も前提に策定されているものである。家族経営等の小規模農場でも取り組みが可能となっている。具体的には、HACCP チーム員や内部検証員としてこれら外部の関係者の参画のもとに取り組みを進めることも可能である。また、施設・設備等のハード面での対応が十分でない場合であってもソフト面での取り組みによりこれを補完し安全性を確保していくことも可能であり、小規模農場での取り組みも期待されている。

4. 認証の現状

農場 HACCP の認証は、実際の認証業務が開始されてからほぼ 1 年を経過した。既に、酪農関係 3、肉用牛関係 2、養豚関係 11、採卵関係 6 の計 22 農場が中央畜産会より農場 HACCP 認証農場として認証・公表されている (表 3)。また、農場 HACCP 推進農場については、酪農関係 2、肉

用牛関係 12, 養豚関係 45, 採卵関係 25, 肉用鶏関係 2 の計 86 農場が指定されている。

農場 HACCP については、この認証業務が開始されて以降、報道関係等からの関心がとみに高くなってきている。私どもが実施した調査でも HACCP に取り組んでいる農場での 7 割が取り組みを継続したい、また、取組をしていない農場でも 6 割が関心があるとし、かなりの農場で、高い関心を寄せている。

本事業の推進に当たっては、認証機関の種々の体制整備と併せその審査の実務主体となる審査員の確保、さらに基本的なものとして農場の HACCP 取組の指導中核となる農場指導員の確保が不可欠である。このため、審査委員及び農場指導員についての研修をそれぞれ 2010 年及び 2008 年から開催し、すでに開業獣医師はじめ家畜保健衛生所や農協、飼料会社、薬品製造・販売会社に所属する獣医師等関係者等が受講し、それぞれ 184 名、760 名が修了し、各職場で活躍している。

今後は、各地域での農場 HACCP 認証の普及体制の強化が重要な課題となっている。このため、本年度から新たに中央畜産会と各県畜産協会・家畜畜産物衛生指導協会とが一体となって指導モデル農場による実証展示や普及推進会議の開催等による HACCP 認証事業への理解向上活動を展

開していくこととしている。これらの活動を通じて、今後、より一層生産段階での飼養衛生管理の向上、安全性の確保について生産者からの要請にこたえていくことが重要と考えている。

参考資料

- 1) 農林水産省：家畜伝染病予防法第 12 条の 3 家畜飼養衛生管理基準 家畜伝染病予防法関連法規集平成 24 年度版
- 2) 宮島成郎：家畜生産分野で求められる農場 HACCP の推進，日本獣医師会誌，**65**，812～815，2012.
- 3) DAIRYMAN：安全性が向上し働く者の意識も変わる，DAIRYMAN，2012-3，**30**，2012.
- 4) 矢坂雅光ら：動き出した農場 HACCP 認証制度，畜産コンサルタント，**48-3** (No. 567)，11～51，2012.
- 5) 中央畜産会：畜産農場における飼養衛生管理上の取り組み認証基準（農場 HACCP 認証基準）の理解と普及に向けて，平成 24 年度改訂版 4～9，38～39，78～79，87～88，97～99，2012.
- 6) 中央畜産会：農場 HACCP 認証審査のために，28～52，2013.